

1. 縫製業団体、海外からの低価格受注を拒否

カンボジア縫製協会(GMAC)はこのほど、新聞紙上に声明を発表し、縫製工場が海外の発注元を選別し、低価格受注を拒否すると表明した。声明は、「カンボジアの縫製工場は中小企業が多く、生産する衣服もデザインが単純で利益が少ない。賃金が急速に上昇しており、低価格商品を生産すれば赤字になる」と理由を説明した。カンボジアでは、今年から労働者の月額最低賃金が128米ドル(約1万5,300円)に引き上げられたほか、労働争議も頻発し、縫製工場は苦しい経営を強いられている。ある縫製工場の経営者は、「単価が高い発注のみを受けた結果、受注量自体はやや減った。今後も発注量が多く、単価が高い注文を選んで受注したい」と述べた。カンボジアは昨年1～9月、44億4,000万米ドル相当の縫製品を輸出。国の輸出全体の76%を占める最大の輸出産業となっている。特惠関税適用を受けた欧米向け輸出に強みがある。

2. ユニクロの取引工場で搾取疑い＝人権団体

4/01、人権団体ヒューマンライツ・ナウ(東京都台東区)は、カンボジアの縫製工場の労働環境に関する調査の結果、カジュアル衣料品「ユニクロ」や「ジーユー」を展開するファーストリテイリングや、スウェーデンの同業H&M、英国のマークス&スペンサー(M&S)の取引工場で、労働者の権利侵害が疑われる問題が確認されたと発表した。2月にファーストリテイリングなどと取引のある4つの縫製工場で労働者に聞き取り調査を行ったところ、3つの工場で、短期雇用契約や更新契約の拒絶、長時間の残業といった問題が確認された。ファーストリテイリングは同日付の声明で、うち1工場には「ユニクロ」製品の生産を委託しており、労働環境について自社調査を進め、問題が認められた場合は工場側に改善を求めると明らかにした。別の2工場は取引先の関連工場と判明したものの、直接の取引関係にはなく、事実関係を確認しているとした。

3. 中国支援のメコン橋が開通

カンボジア北部スタントレン州のメコン川に架かる「カンボジア・中国友好橋」と、同省とプレアビヒア省を結ぶ国道9号線が4月1日に開通する。いずれも中国政府による借款で建設された。総工費は5,000万米ドル(約60億円)余り。友好橋は全長1,731メートルで、開通時期は当初、来年1月が見込まれていたが、予定より早く完成した。友好橋は今後、ラオス、ベトナム方面との物流ルートとしても大きな役割を果たすと期待されている。

4. 日本支援のカンボジア「つばさ橋」が開通

日本の政府開発援助(ODA)で建設が進められていたカンボジアのメコン川に架かる「ネアックルン(つばさ)橋」が完成し、6日現地で開通式典が開かれた。建設事業の総費用(供与限度額)は約122億円。つばさ橋は長さ2215メートルで、2羽の鳥が翼を広げているように見えることが名前の由来。ベトナム最大都市ホーチミンにつながるカンボジアの幹線道路、国道1号線をプノンペンの南東ネアックルン地区で分断するメコン川に架設された。

つばさ橋の開通で、これまで待ち時間の多いフェリーの利用を余儀なくされていたメコン川の往来が24時間いつでも通行が可能となり、同川流域における輸送上の最大のボトルネックの一つが解消。これにより、ホーチミンープノンペンーバンコクを結ぶ総延長900キロメートル超の「南部経済回廊」が1本の道路でつながり、現地に展開している多くの日系企業にとっては輸送時間・コストの大幅縮減などの効果が期待されている。

5. ベトナム・カンボジア国境にワンストップ合同貨物検査場を建設へ

ベトナムとカンボジアの運輸省、およびベトナム・タイニン省とカンボジア・スバイリエン州の行政府はこのほど、タイニン省のモクバイ国境ゲートとスバイリエン州のバベット国境ゲートにワンストップサービス(国境手続きと輸出入手続き窓口の一本化)による合同貨物検査場を建設する案を双方の政府に提出することで一致した。

6. ポト派犠牲者の記念碑完成、元収容所跡に

カンボジアの旧ポル・ポト政権による大量虐殺の犠牲者の記念碑が、政治犯収容所のあったプノンペンのトゥールスレン虐殺博物館の敷地内に完成し、26日に記念式典が開かれた。記念碑には、200万人近くが犠牲になったとされるポト派の虐殺行為を「私たちは決して忘れない」という言葉が刻まれ、周辺には政治犯収容所に収容され命を失った1万2,272人の名が刻まれた石が置かれた。ドイツ政府が建設資金を援助した。

7. ロールス・ロイス、首都の販売店を正式開業

3/19、高級車メーカーの英ロールス・ロイス・モーター・カーズは、プノンペンのショールームを正式に開業した。217 番通りに立地し、「ファントム」や「レイス」「ゴースト」を販売する。価格は最低 65 万米ドル(約 7,840 万円)から。ロールス・ロイスは昨年6月、カンボジアでマツダや起亜の車両を販売するHGBグループと代理店契約を締結。以来、ロールス・ロイスを約 20 台販売したという。

8. 南部タケオにカジノ3 軒、4 月にも開業

南部タケオ州で、4月中旬のクメール正月前に3軒のカジノがオープンすることが明らかになった。ベトナムからのカジノ観光客を呼び込むという。カジノが新設される場所は、ベトナム国境沿いのタケオ州プノンデン村キリボン地区。すでに2軒は完成し、運営許可証の発給を待っている。同州ではこれらとは別に、すでに2軒のカジノが運営されている。カンボジアでは自国民のギャンブルは禁止されているが、外国人向けのカジノは容認。国境地帯などのカジノに周辺国から多くの観光客が訪れている。特にベトナムからのカジノ客が最も多く、観光省によると昨年は 90 万人が訪れた。同年にカジノ 59 軒が納めた税額は合わせて 2,500 万米ドル(約 30 億円)に上り、前年比 15%増加した。

9. 豊田通商、ポイペトにテクノパーク建設

3/31、豊田通商は、ポイペト市に、日系自動車部品メーカーを主な入居対象としたテクノパークを整備すると発表した。総面積約6万平方メートルの敷地に計4棟の建屋を建設。入居企業向けに、工場レンタルや従業員向け給食サービス、総務や経理といったアドミニストレーション業務を提供する。初期投資は5億円で、2020年の入居企業数目標を10社以上としている。タイの日系自動車部品メーカーが、サテライト拠点としてカンボジアに進出している動きに対応する。豊田通商は4月に100%出資の新会社「テクノパーク・ポイペト」を設立。第1期工事を5月に着工し、今年末をめどに営業を開始する予定だ。自動車部品製造の一部工程を請け負う加工請負や、農業従事者を教育して製造現場に派遣する人材サービスも提供する。

10. タイのT K 、保有工業団地を売却へ

タイ大手の衣料品メーカー、TKガーメントは、カンボジア・バンテイメンチェイ州シンボンに開発した「シンボン工業団地」を売却することを決めたようだ。シンボン工業団地の開発用地として取得した土地の面積は約 500 ライ(80 万平方メートル)。このうち 400 ライを第1期分として開発し、昨年初めにTKガーメントの自社工場と顧客の衣料品メーカー1社が操業を開始した。第1期分の開発投資額は5億バーツ(約 18 億 5,000 万円)。一時は欧米向け輸出に一般特惠関税(GSP)が利用できることや低賃金が魅力となって、国内外の企業から入居の問い合わせが殺到した。1期分の用地完売を見込んで2期分の開発計画を打ち出したが、その後、世界的な景気減速で引き合いが急減。景気回復に時間がかかるとみて売却することを決めた。現在、中国企業数社と交渉を進めており、価格が折り合えば年内にも売却する予定。

11. 労働者たちの識字率上昇を目指す試み

3/03、プノンペンでは、ナショナル・リテラシー・キャンペーンの開幕式が行われた。その場でスピーチを行ったフン・セン首相は、民間企業の経営者達に対して、文字の勉強を行なうレッスンを導入し労働者達に活用させるよう訴えた。特に読むための勉強は、労働者達にとっても有益なものだと首相は話した。しかし、経営者達の反応はそこまで熱意のあるものではなかった。フン・セン首相はスピーチで、「縫製分野も含め、民間企業にはこの機会に是非識字率普及に協力して欲しいと考えています。文字の読み方も書き方も知らない労働者達の状況に着目して欲しいです。誰もが同じように、文字の教養を身に付けるべきです」と続けた。また、プノンペンにある縫製工場 Sky Nice International 工場の統括マネージャーである Chea Smnang 氏は、「労務省からは、労働者向けの授業を行なえという通達はまだありません」と話し、「正式に通達があれば、もちろんレッスンをを行うことを考えます。書く事も読む事も出来ない労働者たちはたくさんいますから」と続けた。また、カンダレ州にある Now Corp の統括マネージャー Meth Veasna 氏は、「私の工場に勤めている労働者の大半が、読み書きを出来ないことを考えると、あまりに理想論ではないかと思います。この件は、とりあえず工場に戻ってボスに報告し、政府から要求があれば、レッスンを行います。しかし、工場の生産性に良い影響を与えるとはいえないでしょうね」と反応も様々だった。

12. オーナー夜逃げ、残された労働者はストライキ中

プノンペン Dangkor 地区の DF Fashion Apparel 工場では、2/27から工場オーナーが突然姿を消している。Mr.Mer と呼ばれるオーナーの国籍はイスラエル。彼が姿を消したため、突然職を失うこととなった工場の労働者 540 人は、500 ドル〜600 ドルの支払いを現在政府に要求し、ストライキを行っている。

National Trade Union Confederation (NTUC)の代表 Fa Saly 氏は、「労務省には、とりあえず工場の備品を全て売り払ってもらい、売ったお金を労働者たちの給与、手当に回して欲しいと思っています」と話した。また DF Fashino の統括マネージャーは、「裁判所の助けを借りず、なんとか労働者たちにきちんと給与を支払いたいです」と話した。Saly 氏は、労務省に書類を送り、この騒動に対応するため、すぐに労働者たちのストライキを見に来るよう要請した。このようなオーナーが工場を放り出して逃亡する事態は、カンボジアではここ数年問題となっている。カンボジアの法律では、投資を行っているビジネスマンたちを拘束する決まりはない。しかし、労務省でストライキ問題を扱っている Vong Sovann 氏は、「問題を解決するため、現在政府は元オーナーを探している段階だ。もしも彼を見つけることができなかった場合、工場の備品を売って労働者たちへの支払いに回す」と話している。

3/09、置き去りにされた労働者達それぞれに、500 ドルから 600 ドルの支払いが行われることが決定。Saly 氏は、「DF Fashion の建物賃貸していたオーナーが、工場内のものを全て売り払うことに同意。突然無職となってしまった労働者達は、その中から賃金や手当の支給を受けることになった。合計で 8 万ドル以上が、450 人の労働者に支払われます。DF Fashion 工場のオーナーは、先月なんの知らせもなしに、外国へ出て行ってしまっています。イスラエル国籍の工場オーナーは、名前は Mr,Mer としか労働者達には知られていない」と話している。建物のオーナーは、「もし彼がカンボジアに戻ってきた場合、未払家賃などを含めた金額を彼に請求する」と話した。

13. モンドルキリ州のゴム手袋製造工場でスト

Mondrukiri 州 Pech Chreada 地区でゴム手袋を製造している Sokfin 工場に勤めるおよそ 170 人の労働者達が、3/09 からストライキを行って、組合を組織する権利、不当に解雇された 2 人のスタッフの復職、賃金カットの取り消しなどを訴えている。ストライキを行っている。Duoun Veasna さんによると、労働者達は、工場の安全性の確保、妊娠休暇の導入なども同時に要求していると言い、「労働組合をつくりたいと思っています。化学物質を着色したりする際は、マスクやブーツ、グローブなどが必要です。そして、そういったものなしに仕事をすると命令する工場と、闘う組織が必要です」と話した。労働者達は、賃金についても 1 日 6.25 ドルから 7.5 ドルに上げるように要求。また、2 ヶ月体調不良で休んでいたことを理由に解雇された、ドライバーの復職も求めている。労働者のひとり Kay Sokheang さんは、「他にもひとり、小さなミスを侵したことでクビにされています」と話した。また、先月からこれといった理由もなく賃金がこれまでの 200 ドルから 192 ドルに下げられたことにも、不満があるようだ。

14. 倒産工場で労働者のデモ

3/10、1 月末に倒産した工場の労働者達がデモ活動を行い、今後も続行していく考えを示した。プノンペンの Chbar Ampov 地区にある Kui Xing 工場は、1 月 31 日に倒産した。しかし Free Trade union の代表 Ry Sithinet 氏は、「工場側が労働者に支払ったのは、2 月分の給料と未使用分の年次休暇のみでした。これは法が定めているよりも少ない補償額です。労務法によると、月額給与と、未使用分の年次休暇、それに加えて、労働者に事前に知らせをしなかったことに対する補償金と損害賠償金も支払わなくてはなりません」とは話す。カンボジアの労働法では、事前の通知なしに工場を閉鎖させた場合、工場は、それぞれの勤続期間によって最大 3 ヶ月分の給与を 7 日以内に支払わなくてはならず、また、補償金の額は、勤続期間 1 年であれば半月分、2 年であれば 1 ヶ月分というように、1 年 15 日分と定められている。損害賠償金に関しては、無期限での雇用を受けている労働者は、少なくとも補償金と同じ金額を受け取る権利があり、期限付きで雇用を受けている労働者は、契約の残存期間分の、給料を受け取る権利がある。

Community Legal Education Center の Moen Tola 氏は、「こういった損害賠償の支払が命じられるのは、工場が妥当な理由なしに閉鎖をした場合に限ります。今回の場合、会社の過去の実績を考えると、倒産の理由が妥当である、と裁判所は判断しているので、労働者が損害賠償金を受け取るのは難しいだろう」と話す。Kui Xing 工場の、Phom と名乗る元代表は、「支払は労務法を満たしてはいないかもしれませんが、労働者達はその額での受取りに同意したはずです」と話す。「私の知るところでは、2 月分の給料と未使用休暇の支給を受け取ることに、すでに契約書にサインをしています。オーナーが工場倒産を発表したときは何も文句を言っておらず、倒産した途端にデモを始めています」と話した。

15. フン・セン首相、教師達の賃上げについてスピーチ

フン・セン首相は、「教師達は、給料の代わりとしてお米を受け取る時代もありました。彼らの賃金がこれまでまともに調整されたことはありません。しかしまもなくです。少なくとも 65 万リエル(162 ドル)に、そして最終的な目標は 100 万リエル(250 ドル)です。これは、経験の浅い教育者にも適用されます」と話した。国内には、合計 11 万人が教師として働いている。2013 年の国民選挙の際、カンボジア救国党は「公務員の賃上げ」をキャンペーンのメインとして掲げていた。

以上

